

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年10月5日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501035		
法人名	社会福祉法人 溪仁会		
事業所名	グループホーム白石の郷		
所在地	〒003-0024 札幌市白石区本郷通3丁目南1-16 (電話) 011-864-5861		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年8月26日	評価確定日	平成21年10月5日

【情報提供票より】(平成21年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 10月 10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤 15人, 非常勤 1人, 常勤換算 15.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての	2~3	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,600 円	その他の経費(月額)	15,100~20,100 円
敷金	有(家賃1ヶ月分) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 無() 円	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,400 円		

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18名	男性 1名	女性 17名
要介護1	1名	要介護2	5名
要介護3	8名	要介護4	3名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 85.7歳	最低 76歳	最高 97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	よつばクリニック 札幌歯科口腔外科クリニック 西円山病院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

公園や戸建て住宅に囲まれた静かな住宅地でありながら、商店街・飲食店・地下鉄駅に近く、利便性が高い。各居室は広く、トイレ・流し台・電話を完備しており、利用者のこれまでの生活環境や様式が尊重され、自宅にいた時と同じような生活が出来るよう配慮されている。職員は、利用者と共に過ごす時間を大切にしており、地域交流の機会として、利用者と一緒に近隣公園の清掃活動を長年続けている。管理者・職員はケアサービスの資質向上への意欲も高く、利用者の暮しの安心・安全につながる医療・介護知識や技術、防災訓練・上級救急救命講習等の内部研修を実施しているほか、外部研修にも力を注いでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を日々のケアサービスを振り返る機会としている。全職員が取り組み、管理者がまとめて、さらに質の高いサービスを提供しようと前向きな姿勢で取り組んでいる。また、自己評価・外部評価は、誰でも閲覧できるよう各ユニット内に掲示している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度定期的に開催している運営推進会議では、家族の半数以上、地域住民代表、地域包括支援センター職員及び事業所職員等が出席している。事業所の運営状況報告、行事予定と活動報告、地域や法人内交流、防災計画等を話し合い、サービスの質の向上と運営に効果を上げている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	エレベーター前に意見箱を設置し、家族が意見、要望等を出しやすい工夫をしている。また来所時の会話の中から希望、要望、意見をくみ取り、家族の思いを受け入れ、ケアに反映するよう心がけている。運営推進会議もほとんどの家族が出席しており、そこで出た意見等を事業所の運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、隣接する公園での清掃活動を数年来継続するなど、地域との良好な関係を構築している。また、外出や公園散策時には近隣住民と挨拶を交わし、自然な形で交流を深めようと努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し、「地域の中でその人らしい生活」を送ることができるよう、事業所独自の理念を作り実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は誰でもがわかるように、1階入り口と各ユニットの玄関に掲示している。また、パンフレットや重要事項説明書にも記載している。全職員は、理念カードを所持し、日々の生活の中に反映できているかを確認しながら、介護の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、隣接する公園での清掃活動を数年来継続するなど、地域との良好な関係を構築している。また、外出や公園散策時には近隣住民と挨拶を交わし、自然な形で交流を深めようと努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を日々のケアサービスを振り返る機会とし、全職員が取り組み、管理者がまとめて仕上げた。また自己評価・外部評価は、誰もが閲覧できるよう各ユニット内に掲示している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的開催している運営推進会議では、家族の半数以上、地域住民代表、地域包括支援センター職員及び事業所職員等が出席している。事業所の運営状況報告、行事予定と活動報告、地域や法人内交流、防災計画等を話し合い、サービスの質の向上と運営に効果を上げている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、市主催のグループホーム管理者連絡会議には必ず出席している。サービス内容の疑問・質問等は、行政担当者に随時電話相談し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	機関紙『つくしんぼ』を毎月発行し、全家族に送付している。また、家族の訪問時には利用者の近況等を報告している。金銭管理については、毎月の使用内容を報告し、来訪時に出納帳に確認のサインを受けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エレベータ前に意見箱を設置し、家族が意見・要望等を表出しやすい工夫をしている。また来所時の会話の中から希望、要望、意見をくみ取り、家族の思いを受け入れ、ケアに反映するよう心がけている。運営推進会議もほとんどの家族が参加し、そこで出た意見等は事業所の運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は、最小限にとどめている。退職者が出た場合は、重複する雇用期間をできるだけ長くとり、余裕を持って引き継ぎを行い、利用者へのダメージを極力抑える努力をしている。スタッフ全員が利用者との信頼関係を大切にしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、積極的に参加出来るよう配慮している。研修参加後は報告書を作成し、ミーティングで発表する等、全職員が共有出来るようにしている。また年間研修計画を作成し、母体社会福祉法人内研修やグループホーム内研修を行い、職員の知識と技術の向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市のグループホーム管理者連絡会議に毎回出席しており、各種講習会や研修会等で知り合った同業者とは、互いの施設を見学しあうなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	急に事業所での生活が始まるのではなく、事業所見学や家庭に訪問する事から始まり、利用者が安心感を持ち徐々になじめるよう工夫している。また家族と連絡を密にし、昔からの生活習慣を大切に、環境の変化などにも注意している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に過ごしながら人生の先輩として、趣味等の得意分野で力を発揮してもらうための場面設定に配慮・工夫をし、利用者中心の生活をしている。一人ひとりの希望に沿った支援が出来るよう共に学び支えあい、喜怒哀楽を共有出来る関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや、これまでの生活の習慣を尊重している。個々の意向や希望の把握に努め、困難な場合は家族に相談し、本人本位の生活が出来るように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日ごろの関わりの中から、より良く暮らすための要求や希望を汲み取り、そこで得た情報を基にアセスメントを行い、ミーティングで全ての職員の意見を聞き、本人や家族の意見を反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに、介護計画の見直しを行っている。毎日の状態を詳細に記録し、カンファレンスで話し合い、状況に即したケアプランを作成している。利用者の状況に変化があったり、日常生活で新たな問題が発生した場合は、そのつど見直しを行い、現状に即した介護計画を作成し本人・家族に説明している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の送迎や外出時の付き添い、日常的な公園散歩など、利用者本人と家族の状況や都合に応じ、柔軟な支援を行っている。また、隣接老人保健施設や併設の居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、デイサービスセンターと連携を図り、個々の満足度を高めるよう、可能な限り対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を大切にし、かかりつけ医へ継続して通院出来るよう支援している。自分で体調変化を訴えられない利用者の状態を把握するために、医療機関との信頼関係を築き、常に適切な医療を受けられるように努めている。併設デイサービスの看護師が朝・夕2回巡回している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人と家族の希望を十分に聞いた上で、重度化した場合や終末期の対応を決定し、全職員が共有している。利用者の状況の変化に合わせて、家族や医療機関と相談の上、安心して過ごせる場所を見つけられるよう、個別に支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	母体福祉法人が個人情報保護に努めており、ISO-Pマーク（プライバシーマーク）を取得している。全職員も方針を徹底し、記録等は厳重に管理している。また、利用者への言葉かけや支援は、一人ひとりの誇りや羞恥心に配慮し、表情も観察しながら日々のケアを行なっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は、日々自由に暮らしている。個々のペースを大切にし、運動や散歩、ドライブなど一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。本人の自己決定を優先し、その人らしく穏やかな生活が送れるよう、行きたい所へ行けるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に献立作成や配膳、後片付け等を行っている。職員も利用者と同じ食卓に着き、会話を楽しみながらゆっくり食事が出来るよう支援している。外食や屋外でのバーベキューなどの、行事も取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調や要望を聞き、その日その時の状況に合わせて、リラックスして入浴できるようにし、一人ひとりの今までの習慣に合わせた支援をしている。希望があれば毎日入浴できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や配膳、後片付け、掃除、菜園作り等の家事は、利用者それぞれの能力や生活歴に応じて役割が持てるよう支援している。また、歌集、週刊誌、新聞等を用意し、楽しみ事や好きな事を大切にできる生活を目指している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身の活性化につながるよう、近所の公園へ散歩を兼ねた清掃活動などの外出支援を行っている。また歩行が困難な利用者にも、庭先での昼食やティータイム、日光浴をするなど、室内に閉じこもらない生活を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は鍵をかけることの弊害を理解しているが、1階中央玄関は併設事業所と共用のため、保安上オートロック式になっている。各ユニットの玄関は、施錠していない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署の協力のもと年2回実施し、避難経路の確認、消火器の使い方、設備点検も行っている。さらに、職員全員が救急救命講習を受講している。併施設職員の協力が得られる体制が出来ており、緊急連絡網訓練等も毎年実施している。また、家族用の緊急通報連絡網を作成している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分摂取量を記録し、利用者の嗜好を反映した献立を作成している。自然食品やオーガニック食品を取り入れ、栄養バランスと塩分摂取に気を配り、食欲が出るよう、見た目にも美しく盛り付けしている。さらに、一人ひとりの身体・嚥下状況に応じた支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の壁には、利用者の行事写真や作品を飾り、トイレと廊下には手すりが配置されている。居間や食堂、台所、廊下等は広くゆったりしており、中庭からの自然光が心地良い。食事作りや掃除などの日常生活の匂いや音で五感を刺激し、温度や湿度に気を配り快適な居住空間を作っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居室にはトイレ、流し台、クローゼット、電話があり、プライバシーに配慮した造りになっている。個々の使い慣れた家具、調度品、生活用品等を各家庭から持ち込み、写真や手芸作品等を飾り、安心して心地よく過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。